

イチゴ生産が安定する技術

～総合防除の導入支援～

近年、イチゴ栽培では化学合成農薬が効きにくい病害虫（ハダニ・うどんこ病）が増加し、収量の安定が難しくなっています。また、生産者には防除による肉体的負担や収量減による精神的負担がかかっています。そこで、平成 27 年度から化学合成農薬に依存しない多様な防除、いわゆる「総合防除」の導入を指導し、生産安定と生産者の負担軽減を図っています。

1. ハダニ類の総合防除

【ハダニ類天敵製剤の利用】



育苗や本ぼに、ハダニ類を捕食する天敵を放つことで、化学合成農薬を削減することができます。

【苗の炭酸ガス処理装置の導入】



高濃度の炭酸ガスの中に、定植前の苗を 24 時間置くことでハダニを死滅させ、本ぼへの持込みを防ぐことができます。

2. うどんこ病の総合防除

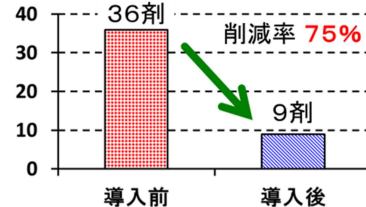
【UV-B 蛍光灯の利用】



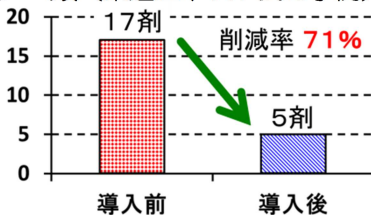
育苗や本ぼで、紫外線を照射することで、うどんこ病の予防ができます。

3. 総合防除導入前後の使用薬剤数の変化

【うどんこ病（東近江市 KH 氏の事例）】



【ハダニ類（東近江市 KY 氏の事例）】



これらの技術を組み合わせることで、うどんこ病やハダニ類については化学合成農薬が 70% 以上削減できた事例もあります。東近江管内で生産者組織に所属するイチゴ生産者 52 戸のうち、平成 29 年度にイチゴの総合防除を導入された戸数は、ハダニ類天敵製剤（本ぼ）28 戸、苗の炭酸ガス処理装置 4 戸、UV-B 蛍光灯 17 戸となっており、それぞれ改善効果を実感しておられます。今後も、イチゴ栽培の魅力を向上させ、消費者に喜ばれるイチゴを届けられるよう、総合防除の普及拡大を図ります。

Facebookページ [ふきゅーとる東近江](#)

普及活動を紹介し管内の農作物情報をお知らせしています。一度のぞいてみてください。

普及活動を紹介し管内の農作物情報をお知らせしています。